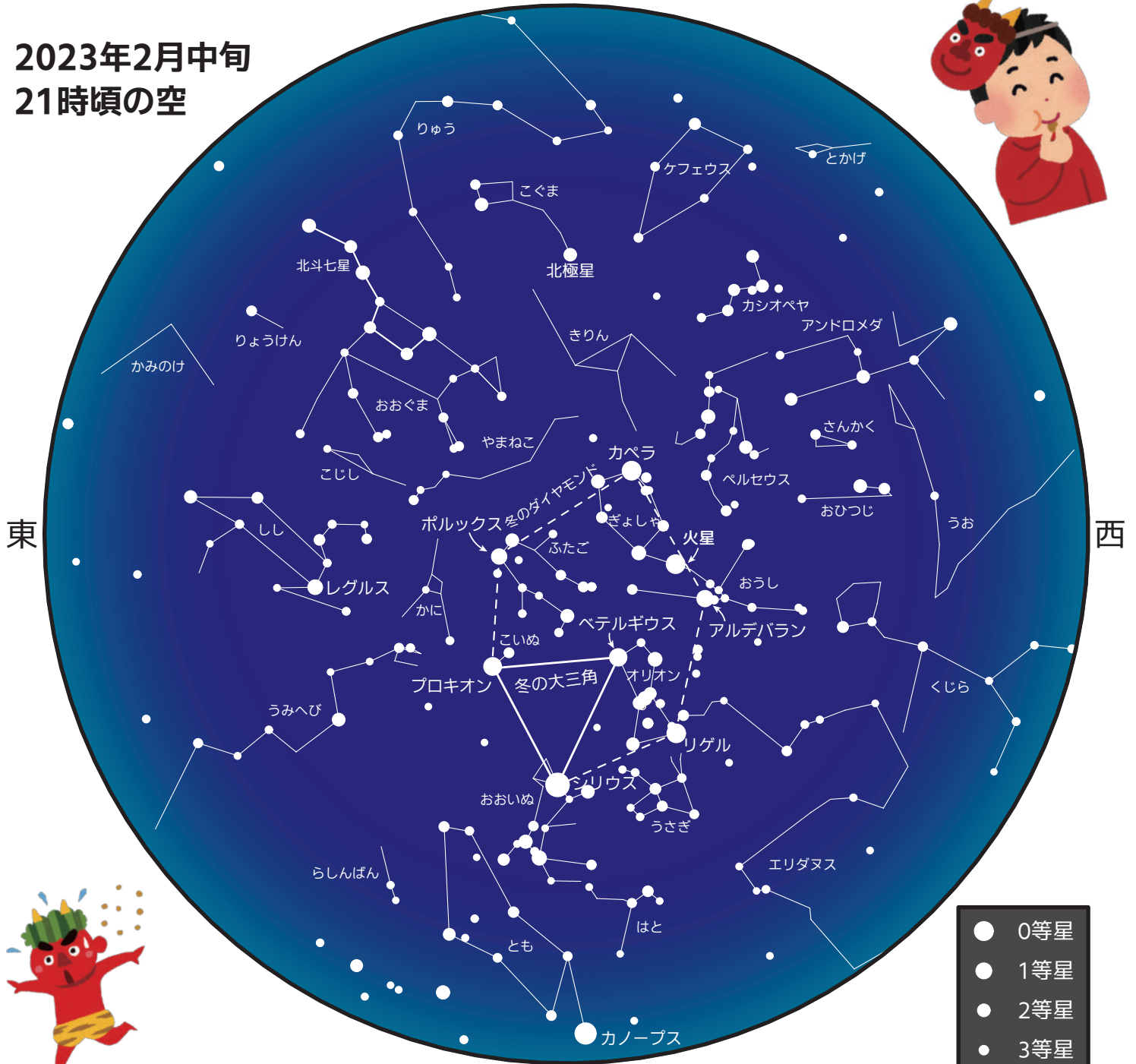


阿南市科学センター 2月の星空案内

北

2023年2月中旬
21時頃の空



南

今年の冬は徳島でも何回か雪が降りました。雪の結晶というと多くが六角形をしています。冬の夜空の中にも六角形があります。南の空やや高いところから頭の真上にかけて明るい星を結んで作る六角形で、**冬のダイヤモンド**と呼ばれています。冬のダイヤモンドは、おおいぬ座の**シリウス**、こいぬ座の**プロキオン**、ふたご座の**ポルクス**、ぎょしゃ座の**カペラ**、おうし座の**アルデバラン**、そしてオリオン座の**リゲル**からできています。ひらいた片手をめいっぱい伸ばしてもつかめないほどの大きなダイヤモンドです。

ところで、冬のダイヤモンドの星以外にも明るい星が見えています。ひとつはオリオン座にある**ベテルギウス**で、もうひとつは太陽系の惑星の仲間である**火星**です。ベテルギウスとアルデバランと火星と、赤みを帯びた色の星たちが赤さ比べをしているようにも見えます。なお明るさではベテルギウスが**約0.4等**、アルデバランが**約0.9等**、火星が**約0.1等(2月中旬)**となり火星に軍配が上ります。しかし火星は下旬になるにつれ少しずつ暗くなり、3月に入るところには**約1.0等**の明るさとなります。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>



2月の月の満ち欠けと惑星について



満月
6日

今年最小の満月



下弦
14日



新月
20日



上弦
27日

2月の天体観望会で月が見える日時は？



2/4(土) 全ての回で観察可能



2/25(土) 全ての回で観察可能

水星：上旬ごろ、日の出前、東のごく低空に見える。【約-0.1等】

金星：日没後、西の空やや低いところに見える。【約-4.0等】

火星：夜のはじめごろから見られ、夜遅くに西の空へ沈む。【約0.1等】

木星：夜のはじめごろから見られ、21時ごろに西の空へ沈む。【約-2.1等】

土星：太陽とのみかけが近く、観察できない。

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ上旬の明るさ。

月末になるにつれて
木星と金星が近づいて見えるよ！

太陽が沈んだ後、西の空を見てみよう！



今月オススメの天体

スィーティーエフすいせい

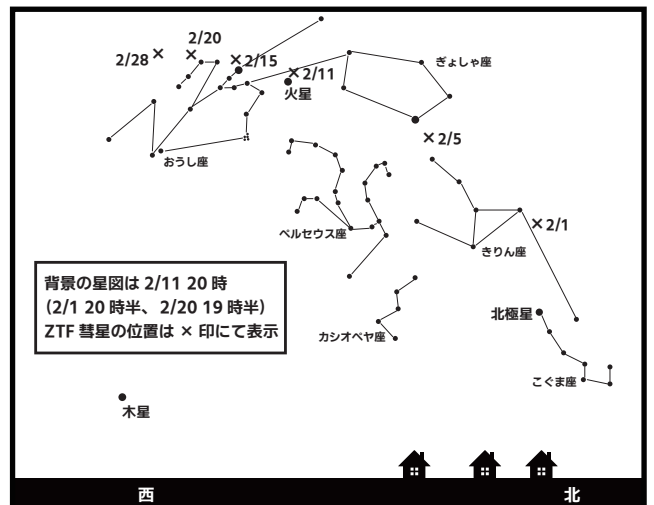
★ZTF 彗星 (C/2022 E3) が見ごろ

彗星とは、私たちが暮らす地球などの惑星と同じ、太陽系天体のひとつです。大きさは直径数 km から数十 km ほどで、氷やチリなどでできており、汚れた雪だるまと例えられることも多い天体です。彗星は惑星とちがいで、太陽の周りをまわるものだけではなく、1度だけ太陽に接近するものもあります。

ZTF 彗星は2月2日頃地球に最接近し、見ごろをむかえています。この彗星は2022年にアメリカのパロマー天文台で行われている突発天体の全天監視プロジェクト (Zwicky Transient Facility) によって発見された彗星です。彗星は発見した人や研究プロジェクトの名前が付けられるため ZTF 彗星と呼ばれています。

彗星を観察するにあたり、注意しておきたいことが2つあります。1つは**見える位置**です。彗星は恒星よりも地球の近くにあるので、他の恒星に対しての位置がどんどん変化していきます。特に地球接近時は位置の変化が大きくなります。そしてもう1つは**見え方**です。恒星は双眼鏡や望遠鏡で見ると光る点で見えるのに対し、彗星はぼんやりとした淡い光の姿として見えます。

科学センターの観望会では**2月11日19時と20時の回**で見るチャンスがあります。2月11日は火星との見かけが近いため、比較的探しやすい位置にあります。この頃の明るさは**5等**ほどと予想されていますが、肉眼での観察は難しく双眼鏡が必要になります。夜空に現れた彗星をこの機会に楽しんでみてはいかがでしょうか。



(図) ZTF 彗星 (C/2022 E3) の位置



(上) 口径10cm屈折望遠鏡にて1/22未明に撮影したZTF彗星 (E/2022 E3) 写真左下の彗星から、右上にかけて尾がのびているのがわかる。(撮影：A.Suzuki)



(左・右)口径25cm屈折望遠鏡にて撮影したZTF彗星
右は左の写真の1時間後に撮影したものでZTF彗星は矢印の先。恒星に対する彗星の位置変化がわかる。
(撮影：A.Suzuki)